

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	空家等対策事業			事業開始年度	令和元年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	富田 渉		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	01	計画的な土地利用				
事業の目的	空家等対策を総合的に実施し、市民等の生命や財産に対する被害を防止することにより、安心安全な生活環境を確保するとともに、空家等の利活用による活性化を目的とする。						
事業の概要	空家等対策審議会の実施や特定空家に対する解体費用の補助、空家等情報バンクの利用促進。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	200	800	2,618			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	成果	空家等除却費及び空家バンク利用促進補助	件	4	4	5	6
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ●多少は達成した ○達成できず					
	説明	空き家等情報バンク利用促進補助金を利用して空家を売買した件数 4件。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ●余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小	業務量	○拡大 ●現状 ○縮小			

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	地籍調査事業			事業開始年度		昭和49年度	
担当課	産業経済部 農政課			担当者		齋藤 恒夫	
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	01	計画的な土地利用				
事業の目的	土地トラブル防止、公正課税、成果の数値情報化による電算管理がされ利便性が向上する。 又、公共事業等の正確な計画策定、災害時等の土地境界の復元等が可能となる。						
事業の概要	負担金交付申請→県・市における実施地区公示→地元説明会→境界立会→一筆地測量→閲覧 →地籍図、地籍簿作成→国への認証請求→認証済地区の地籍図、地籍簿の法務局送付						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度		4年度		5年度	
	実績/当初予算	実績		実績		当初	
	総事業費	9,502		10,339		13,969	
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	成果	地籍調査完了面積	K㎡	64.84	64.92	65.01	65.09
	成果	数値情報化完了面積	K㎡	57.19	57.97	57.97	57.97
達成度の 評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	国土調査法に基づき富野岡Ⅱ地区と富野岡Ⅲ・向河原Ⅰ地区の調査を実施し、富野岡Ⅱ地区 の後半工程及び富野岡Ⅲ・向河原Ⅰ地区の前半工程を完了した。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	立地適正化計画策定事業			事業開始年度	令和 4年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	富田 渉		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	01	計画的な土地利用				
事業の目的	従来の拡大型の都市構造から集約型の都市構造への転換を図り、都市機能や居住が集約したコンパクトシティの形成を図る。						
事業の概要	都市機能誘導区域や居住誘導区域を定め、都市機能や居住を誘導し、コンパクトな都市構造を形成する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	0	6,424	7,900			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	成果	計画的な土地利用が行われていると感じる市民の割合	%		54.5	55	55.5
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ○多少は達成した ●達成できず					
	説明	令和4年度から立地適正化計画の策定に着手し、令和6年度に策定する予定。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	駅広場改修事業			事業開始年度	平成23年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	富田 渉		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	02	氏家駅東口周辺の利便性向上				
事業の目的	JR氏家駅東口・西口広場の賑わいと潤いある安心安全な空間の形成						
事業の概要	駅東交通広場、駅東交流広場、駅西交通広場の修繕・改修工事、維持管理業務委託を実施する。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	982	1,415	1,091			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	成果	修繕・改修・管理した施設数	件	3	3	3	3
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	環境や景観に配慮した維持管理や修繕を実施したことにより、快適な活気あふれる駅前広場となった。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名			氏家駅東地区魅力向上事業		事業開始年度		令和 2年度		
担当課			建設部 都市整備課			担当者		富田 渉	
■事業の執行計画【計画（Plan）】									
総合計画体系		政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能					
		施策	02	魅力ある良好な市域の形成					
		基本事業	02	氏家駅東口周辺の利便性向上					
事業の目的		氏家駅東地区は都市の発展を牽引する重要な地区として位置づけられており、ＪＲ氏家駅や駅前商業地としての特性を活かした賑わいや魅力を促進する事業を検討する。							
事業の概要		氏家駅東地区の特徴や課題を踏まえ、住民参画のもと、市の発展と市民や来街者にとって魅力ある街なか形成のまちづくりに寄与する。							
■事業実施結果【実施（Do）】									
事業費の推移		年度	3年度		4年度		5年度		
		実績/当初予算	実績		実績		当初		
		総事業費	3,190		4,870		6,230		
■前年度の事業分析【評価（Check）】									
指標の推移		指標区分	指標名称	単位	3年度実績	4年度実績	5年度計画	6年度計画	
		成果	氏家駅東口周辺の利便・安全・賑わいに満足している市民の割合	%	26.3	29.2	29.4	29.6	
達成度の評価と説明		評価	○達成、概ね達成した ●多少は達成した ○達成できず						
		説明	「氏家駅東地区魅力向上まちづくり基本構想」を策定した。また、「氏家駅東地区魅力向上まちづくり基本計画（街なか交流軸形成エリア）」の策定に着手した。						
見直し余地		判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし						
■将来方向性【改善（Action）】									
事業の方向性		○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了							
資源方向性		予算額	○拡大 ●現状 ○縮小			業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	区画整理事務			事業開始年度	平成26年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	磯藤 靖明		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	03	定住・転入の促進				
事業の目的	保留地販売の促進。						
事業の概要	各種広告媒体等によるPR。 販売紹介手数料の支給や販売促進交付金の交付。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	2,330	1,479	1,360			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	成果	当該年度に販売した保留地の区画数	区画数	9	1	2	
			区画数				
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	新規販売がない状況下にて計画では2区画の販売を予定していたが、付保留地1区画の販売となった。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ○現状 ●縮小		業務量	○拡大 ○現状 ●縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	上阿久津台地土地区画整理事業			事業開始年度	平成17年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	磯藤 靖明		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	03	定住・転入の促進				
事業の目的	機能的で魅力ある都市空間の創出。 安全・安心で快適に暮らせる居住環境の形成。						
事業の概要	事業遂行に向けての工事および業務委託、並びに各種補償を行う。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	100,270	52,324	140,594			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	活動	全体整備率	%	91.3	100	100	100
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	全体面積（66.1ha）中、624㎡の舗装工事を工期内完了。事業区域兄の全ての整備が完了し、換地処分へ向けての業務へ移行。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ●余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	移住推進事業			事業開始年度	平成27年度		
担当課	総合政策部 総合政策課			担当者	岩崎 向志		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	03	定住・転入の促進				
事業の目的	さくら市のPR等を行うことで本市への移住を推進し人口増加を目指す。						
事業の概要	本市での暮らしをPRするセミナーの実施や市が滞在用の住居を借上げ、移住検討者に滞在してもらい本市の生活を体験してもらう。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	1,970	1,436	6,341			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度実績	4年度実績	5年度計画	6年度計画
	成果	滞在した世帯の数	世帯	2	2	2	2
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ●多少は達成した ○達成できず					
	説明	令和4年度は、2組5名が利用。					
見直し余地	判定	●数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ○現状 ●縮小		業務量	○拡大 ○現状 ●縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	草川用水環境保全補助事業			事業開始年度	平成 9年度		
担当課	総合政策部 総合政策課			担当者	高橋 岳陽		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	04	みどりの憩い空間の形成				
事業の目的	草川・水と緑の散歩道周辺生活環境の美化を維持するとともに市民や市外の訪問客が同散歩道を利用しやすい環境を作る。						
事業の概要	市が一部景観を整備した草川用水は鬼怒川中部土地改良区連合が管理。その法面の環境保全作業（除草作業）に要する経費の30%を補助金として交付。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	91	108	180			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	活動	作業実施日数	日	2	2	2	2
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	散歩道周辺生活環境の保全がなされ、市民や市外の訪問客が同散歩道を利用しやすい環境を維持している。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	鬼怒川河川公園管理事業			事業開始年度	平成29年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	佐藤 直樹		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	04	みどりの憩い空間の形成				
事業の目的	適切な維持管理をすることにより、市民が安全で安心して利用できる公園とする。						
事業の概要	芝刈、除草、防除、樹木剪定、トイレの清掃施設等の保守点検、修繕						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	19,889	17,729	0			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	活動	草刈・伐採等を実施した面積	ha	14.8	14.8		
	成果	公園施設の点検数	個	39	39		
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	草刈・伐採等（14.8ha）及び公園施設の点検（39個）を実施した。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	都市公園管理事業			事業開始年度	平成29年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	佐藤 直樹		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	04	みどりの憩い空間の形成				
事業の目的	適切な維持管理をすることにより、市民が安全で安心して利用できる公園とする。						
事業の概要	芝刈、除草、防除、樹木剪定、トイレの清掃、施設等の保守点検、修繕、更新						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	99,732	67,872	64,161			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	活動	草刈・伐採等を実施した公園の数	箇所	21	21		
	成果	公園施設の点検数	個	219	219		
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	草刈・伐採等（21箇所）及び公園施設の点検（219個）を実施した。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	生けがきづくり奨励事業			事業開始年度	平成 8年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	富田 渉		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	04	みどりの憩い空間の形成				
事業の目的	生けがきの設置により緑化を図り、緑あふれるまちづくりに寄与する。						
事業の概要	一定基準を満たしたもので新規・更新は工事費の1/2、5万円を限度に補助。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	154	15	200			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	成果	整備された生けがきの延長	m	257	271	300	330
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ○多少は達成した ●達成できず					
	説明	整備延長が前年度より14m伸びた。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ●余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	お丸山公園等再生計画事業			事業開始年度	平成26年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	佐藤 直樹		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	04	みどりの憩い空間の形成				
事業の目的	適切な維持管理をすることにより、市民が安全で安心して利用できる公園とする。						
事業の概要	除草、防除、樹木剪定						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	18,650	29,082	29,478			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度 実績	4年度 実績	5年度 計画	6年度 計画
	活動	草刈・伐採等を実施した面積	ha	4.3	4.3	4.3	4.3
	成果	補植された桜の本数	本	0	0	10	10
達成度の評価と説明	評価	●達成、概ね達成した ○多少は達成した ○達成できず					
	説明	草刈（4.3ha）を実施した。					
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ○余地はあるがまだ時間が必要 ●余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	○見直し継続 ●現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	○拡大 ●現状 ○縮小		業務量	○拡大 ●現状 ○縮小		

事務事業調書（通常評価事業 事後評価）

事務事業名	桜の郷づくり事業			事業開始年度	平成19年度		
担当課	建設部 都市整備課			担当者	佐藤 直樹		
■事業の執行計画【計画（Plan）】							
総合計画体系	政策	05	機能的で住みやすい安全な都市機能				
	施策	02	魅力ある良好な市域の形成				
	基本事業	05	桜の郷づくりの推進				
事業の目的	さくら市の資源である「桜」への意識高揚を図り、市民と行政の協働による“桜の郷づくり”を進める。						
事業の概要	市民を対象に・桜学び講座・桜守体験を開催し、講座で学んだことを活かし、地域の桜を地域住民で保存、継承する。桜を地域で植栽し育てる。						
■事業実施結果【実施（Do）】							
事業費の推移	年度	3年度	4年度	5年度			
	実績/当初予算	実績	実績	当初			
	総事業費	134,469	62,740	94,798			
■前年度の事業分析【評価（Check）】							
指標の推移	指標区分	指標名称	単位	3年度実績	4年度実績	5年度計画	6年度計画
	成果	桜の郷づくり事業に参加した市民の数	人	144	203	250	300
達成度の評価と説明	評価	○達成、概ね達成した ●多少は達成した ○達成できず					
	説明						
見直し余地	判定	○数年内に見直し可能 ●余地はあるがまだ時間が必要 ○余地なし					
■将来方向性【改善（Action）】							
事業の方向性	●見直し継続 ○現状どおり継続 ○廃止・完了						
資源方向性	予算額	●拡大 ○現状 ○縮小		業務量	●拡大 ○現状 ○縮小		